

〔演題名〕

卒前臨床実習における心臓病患者シミュレータを用いた診察実習

Title: Training of physical examination using a cardiology simulator for medical students during bed-side learning

〔発表者・所属〕

小松弘幸^{1,2}、有村保次²、今村卓郎³、北村和雄³、林 克裕¹

1. 宮崎大学医学部附属病院 医学教育改革推進センター
2. 宮崎大学医学部 卒後臨床研修センター
3. 宮崎大学医学部 内科学講座循環体液制御学

〔抄録〕

【背景・目的】シミュレーション教育の重要性の認識が広まる中で、全国の医学教育機関でも心臓病患者シミュレータの普及が進んでいるが、学習到達目標を明確にした上での有効な活用方法は十分検討されていない。今回われわれは、OSCE 後の医学生に必要と思われる循環器系診察技能習得のために、明確な目標設定とシミュレータ演習を取り入れた学習方法を考案したので、報告する。

【方法】対象は本学医学部 5 年生全員 (n=94)。到達目標は、順序立てた診察方法および正常心音の習得と代表的な心疾患の判別。1 グループ 5～6 名に対し、教員 1 名 (非循環器専門医) が 1 回 120 分で講義とシミュレータ演習を実施。3 つの心疾患 (大動脈弁狭窄、大動脈弁閉鎖不全、僧帽弁閉鎖不全) から任意に 1 つを設定し、観察記録 (14 項目のチェックリスト) を用いて、実習前後でスコアを算出した。

【結果】実習前に全対象者の 50%以上が実施できた項目は、聴診器の正確な当て方と心雑音の最強点の指摘のみであり、順序立てた診察に基づいて所見を述べられた者は 1 名もいなかった。実習前後で、総スコア (14 点満点) は 2.20 ± 0.89 から 11.37 ± 1.49 へ有意に改善し ($p=0.005$ by paired t-test) 対象者の 90%以上が診察所見を順序立てて述べることができ、設定された心疾患の病態を推測できた。実習後アンケートでは、対象者の 83%が専門領域に関わらず全ての医師が心臓聴診に習熟しておくべきと回答した。

【結語】到達目標を絞った (minimum requirement を意識した) シミュレータ演習は、限られた時間と人的資源で診察手技の向上に寄与しうる。今後は、実習後の定着度の再評価や反復学習プログラムの確立が課題である。